

令和3年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

- 総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当  
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い  
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	R3-1						
課題名	持続的な農業生産に向けた環境保全型農業生産システムの開発						
課題の概要	減農薬栽培に向けた新規病害防除技術の開発により、県産農産物のブランド力の向上に貢献する。また、植物の防御力を向上させるバイオスティミュラントや環境低負荷型の病害防除剤であるプラントアクチベーター等を開発する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	1人	3人	1人	人	人	4.0
	有効性	1人	3人	人	1人	人	3.8
	効率性・妥当性	人	3人	2人	人	人	3.6
	総合評価	1人	3人	1人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオスティミュラント+プラントアクチベーターの開発と農薬使用とのバランスをとれるように進めていただきたい。</li> <li>・費用対効果が課題ではないか。</li> <li>・製品の開発だけではなく、科学的な裏付けも必要だと考える。</li> <li>・植物ウイルス病研究から、新型コロナウイルスに効果が認められる抗病原菌の発見は大変興味深い。こうした基礎研究を大切にされたい。</li> </ul>						

番 号	R3-2						
課題名	県産果物のブランド力を強化する次世代育種技術の開発研究						
課題の概要	高品質で差別化可能な品種や、近い将来の課題に対応する次世代品種の果樹開発を可能にする分子育種技術の開発を行う。モモの選抜マーカー開発研究をさらに発展させるとともに、ブドウも新たな研究対象に加える。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	2人	1人	人	人	4.2
	有効性	1人	4人	人	人	人	4.2
	効率性・妥当性	人	5人	人	人	人	4.0
	総合評価	2人	3人	人	人	人	4.4
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーカー育種で得られた新品種の登録+試験栽培を期待する。</li> <li>・ブランド力向上と品質改良のバランスを図りながら、今後の研究を進められたい。</li> <li>・市場のニーズにあった品種を開発することで、国内だけでなく海外の裕福層にも届けられる産地作りと並行して進めてもらいたい。</li> <li>・モモとブドウをマーカーから選抜で育種するために多くの困難があるが、ぜひ克服して新しい品種作りを行っていただきたい。</li> </ul>						

番 号	R3-3						
課題名	県主要農作物における細菌病害防除技術の開発研究						
課題の概要	モモせん孔細菌病接種系を用いてせん孔細菌病抑制効果を持つ防除資材を探索するとともに耐病性モモ品種の選抜技術を開発する。また、ナスの青枯病抵抗性遺伝子のクローニングを完結させ、抵抗性育種に利用する遺伝子マーカーを開発する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	2 人	2 人	1 人	人	人	4. 2
	有効性	1 人	4 人	人	人	人	4. 2
	効率性・妥当性	人	5 人	人	人	人	4. 0
	総合評価	人	5 人	人	人	人	4. 0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モモのせん孔細菌病防除研究は本県のニーズに適しており、青枯病で培われた研究データを生かして一步ずつ進まれることを期待する。</li> <li>・細菌病害の詳細なメカニズム解明や費用対効果も検討しながら、今後の研究推進を期待する。</li> <li>・せん孔細菌病・青枯病のいずれも、栽培現場で対応に苦慮しており、その問題解決が図られれば、産地にとって大変ありがたいが、成果を上げるまでには苦難が予想されるため、民間も含めた外部機関と協力関係を構築して取り組まれない。</li> <li>・新規なす青枯抵抗性遺伝子の同定が、新品種の育種につながることを期待している。</li> </ul>						

番 号	R3-4						
課題名	持続可能な農林業を支える種子選抜・肥培管理技術の開発						
課題の概要	独自の分光手法や肥培管理技術等を活用し、造林用の少花粉スギやヒノキの苗を短期間で歩留まり高く育成するための技術の確立を行うとともに、その原理に基づいて、黒大豆やスイートピーなどへの適用を目指す。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	1 人	3 人	1 人	人	人	4. 0
	有効性	1 人	4 人	人	人	人	4. 2
	効率性・妥当性	人	4 人	1 人	人	人	3. 8
	総合評価	1 人	4 人	人	人	人	4. 2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オール岡山での取り組みを続けられたい。水産海洋資源利用は塩分の除去がコスト高につながるため十分に考慮して進められたい。</li> <li>・自治体等、他共同機関との連携を強化して研究を推進されたい。</li> <li>・森林の保全が、おざなりになっている現状の中、環境に配慮した必要な研究テーマであることをアピールされたい。</li> <li>・科学的根拠を示しながら、グルタチオン農業を推進されたい。</li> </ul>						

番 号	R3-5						
課題名	持続可能な飼料・食品産業を支える発酵技術開発						
課題の概要	タウリンを発酵生産し得る微生物を自然界より探索し、或いは既存の菌株を改良し、実用に耐える段階にまで育種する。当該微生物は枯草菌（納豆菌）が最良であると考えるが、同時に平行して、食経験のない微生物についても検討する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	人	3 人	2 人	人	人	3. 6
	有効性	1 人	1 人	3 人	人	人	3. 6
	効率性・妥当性	人	1 人	4 人	人	人	3. 2
	総合評価	人	2 人	3 人	人	人	3. 4
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タウリン生産菌を見つけることのハードルが高すぎるため、納豆菌に特化する必要はないのではないか。</li> <li>・タウリンについての評価もプラス面だけでなく、類似分野との比較対象も並行して行い、経済的価値をいかに生み出すかも含めて、研究を進められたい。</li> <li>・発酵でタウリンを作る可能性やメリットをよく検討されたい。</li> <li>・タウリン発酵技術の開発は大変有意義な研究であり、この技術は他にも応用できると考えられることから、こうした基礎研究を大切にされたい。</li> </ul>						

番 号	R3-6						
課題名	県産農作物の機能性評価による高付加価値化の推進						
課題の概要	県産野菜が含有する機能性代謝物（アミノ酸、カロテノイド、ビタミンなど）やヒト生体への影響を評価する指標（抗酸化能など）を分析し、機能的な優位性を見出す。さらに、これらをより強化する栽培環境条件を見出す。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	人	4 人	1 人	人	人	3. 8
	有効性	人	2 人	3 人	人	人	3. 4
	効率性・妥当性	人	2 人	2 人	1 人	人	3. 2
	総合評価	人	4 人	1 人	人	人	3. 8
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グルタチオン施用を生かした具体的な取組を進められたい。</li> <li>・県産素材と別地域の素材との比較を行うことが重要である。</li> <li>・事前調査に基づき研究対象を絞ると進めやすいのではないか。</li> <li>・普段接種する食品からの栄養摂取を重要視する必要がある。</li> <li>・幅広い分野であるため、今後どのように研究テーマを絞り込むかにより成果も変わることから、その点を意識して研究を進められたい。</li> <li>・分析だけではなく、より独自性のある研究を展開されたい。</li> </ul>						